

2016年3月22日

<プレスリリース>

「草の根・人間の安全保障無償資金協力」

マット・グロツソ州クイアバ市

「クイアバ養護学校マイクロバス整備計画」

に対する草の根・人間の安全保障無償資金協力の贈与契約署名式について

在サンパウロ日本国総領事館

去る3月17日（木）当館において「クイアバ障害者を支える親と友の会」に対する我が国の草の根・人間の安全保障無償資金協力の贈与契約署名式をエウニセ・ヴィトル・ダ・シルヴァ理事長と当館中前隆博総領事の間で行いました。

●出席者の挨拶：

・中前隆博総領事「草の根・人間の安全保障無償資金協力は開発途上国の多様な援助ニーズに応えるための制度であり、それらの国の地方自治体、教育・医療機関及び NGO 等、現地において比較的小規模なプロジェクトに対する資金協力である。APAE は知的・身体障害者の保護や教育、医療的サポート等素晴らしい活動をされていることに敬意を表する。この支援によるマイクロバスによって、生徒達が安全で快適に通学することができるようになり団体の活動が活発になることを大変嬉しく思う。大事に使用してほしい。」と祝辞を述べました。

・エウニセ・ヴィトル・ダ・シルヴァ理事長「日本国政府の協力を表するとともに、感謝の気持ちでいっぱいである。この度の資金協力によりマイクロバスを整備することで、生徒達の通学環境は大幅に改善されることになる。このことは、多くが貧しい家庭の出身であり、多くの時間を APAE で過ごしている生徒達にとって、また団体の活動にとって大変意義深いものである。」と謝辞を述べました。

●案件概要：

「クイアバ障害者を支える親と友の会」は1967年に設立され、地域の知的・複合障害者約200名に対して教育、社会福祉及びセラピー等の療育を行っています。

現在団体が所有しているバスは一台のみ、乗車人数も限られており、生徒の大半は路線バスを利用しています。路線バスの利用は家族の経済的負担であり、生徒の出席率の低下の原因となっています。また、交通事故などの危険性もあり、生徒の通学そのものや安全を最大限確保できない状況です。

今回の協力は、通学用マイクロバスの整備に対し支援を行うもので、草の根・人間の安全保障無償資金協力として、53,198米ドルを限度に資金を供与することとしています。これにより、生徒が安全及び快適に通学することが可能になるほか、出席率の大幅な向上が見込まれ更に効果的な教育支援活動が行われることが期待されます。



左より中前総領事、シルヴァ理事長、コスタ校長

(お問合せ先)

在サンパウロ日本国総領事館経済班
(0 x x 1 1) 3 2 5 4 - 0 1 0 0